

国語科学習指導

日時	平成16年10月6日(水)5校時
学級	3年A組(男子19名女子14名計33名)
場所	3年A組教室
指導者	教諭 佐藤 修子 (T1) 講師 山蔭 奈津子 (T2) チューター 及川 咲花 (TU)

1 単元名 四 状況に生きる 「故郷」

2 単元について

本単元は、「人間の生きる姿をとらえよう」「自分の考えを訴えよう」の教材で構成されている。「人間の生きる姿をとらえよう」では、「故郷」「二つの悲しみ」「お辞儀する人」の三つの作品・文章が配されており、それぞれ戦争や革命など状況の下で生きる人間の姿を描いている。また、「自分の考えを訴えよう」では、書きまとめたことを基に、相手の心に届くスピーチを自らの声で行うことの大切さについて考えさせたい。

この単元には、小説「故郷」随筆「二つの悲しみ」詩「お辞儀する人」の三つの作品・文章が配されている。表現形態も、時代背景も異なるが、状況と対峙し、状況とのかかわりを言語によって表現した作品・文章が載っている。これまでの「読むこと」の学習を思い返しながら作品・文章を味わわせたい。作品・文章の描かれた時代背景を知り、理解を深めるとともにその状況を理解させた上で風景や人物描写に目を向けさせたい。「故郷」は、故郷を通して、社会・国家のあり方を問題にした作品である。辛亥革命は一応の成功を収めたものの多くの民衆は困窮していた。「故郷」に描かれた現実の社会は矛盾や欠陥に満ちている。そういう社会を改革しようとする人間像をとらえさせたい。風景描写が社会状況や、登場人物の状況を例えている表現上の特色や、会話の中に多用されている「……」に込められた話し手の心の動きに注目させ、人間の生きる姿をとらえさせたい。

「自分の考えを訴えよう」では、生き方について考えたことを基に、相手の心に届くスピーチを工夫させたい。

3 生徒の実態

このクラスは4月当初国語に関する興味や関心は高い方とは言えず、黙読等も集中して行うことが苦手な生徒もいた。また、表現技法、歴史的仮名遣い、漢文の基礎事項など既習事項の定着がおぼつかない生徒も1/3ほどいた。昨年度のCRT等の結果によると「興味・関心」が非常に低く、「読むこと」が低く「書くこと」「言語事項」が全国平均と比べて高かった。昨年度の学習定着度テストでは、「人物の考えについて文脈から読み取る」「主人公の人物像をとらえる」「主題を考える」などが『読むこと』の中では県平均より大きく下回っていた。全体的に見ると、男子の落ち込みが大きい。

1学期、TTの授業(T1 T2と週2回、チューター週2回。うち1回はT3までの3人のよる指導体制)を通して、個別指導を重点的に行った。また、個人の読みの時間を多く取るなどして、個人の力の伸長を図る指導に心がけた。その結果、少しずつではあるが、分かるという意欲が4月当初よりもみられている。

「読むこと」の指導では、個人読みの時間や、黙読の時間を多用して個に応じた読み取りを大事にしている。課題に迫る方法でも選択制を取ったりして、個への配慮に心がけている。その結果、生徒の学習への意欲は向上しつつある。

4 単元の目標

- (1) 文章や作品から人間や社会について考える活動に進んで取り組む。
- (2) 目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を身につけるとともに話し言葉を豊かにしようという態度を育てる。
- (3) 文脈の中における効果的な表現や文章の特徴から書き手の表現意図を理解し、主題に迫る。

5 指導計画 (10時間計画)

時	学習内容	評価規準				
		関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	言語事項
1	背景となる時代の状況を知り、理解を深める。 通読して、内容、表現の特徴を捉える。(故郷)	作品の背景にある時代の状況に関心を持ちながら読み進めている。			作品を通読し、内容を整理して作品構成をとらえている。	
2	変わる故郷と故郷の人々の様子と「わたし」の思いを読み取る。 (故郷)			社会状況と関係づけて感想や意見を書いている。	風景や人物の描写に着目して読み、登場人物の変容や生き方その背景にある社会状況をとらえている。	寂寥などの抽象概念を表す語句を人物の心情とともに理解している
1	離郷する「わたし」の思いを読み取る。 (故郷)				作者魯迅の思いをとらえ考えを深めている。	
1	作品の主題をとらえる。 (故郷)		登場人物の変容や生き方などについて読み取ったことをもとに自分の立場や考えを明確にして話し合っている。	登場人物の思いをとらえて感想や意見を論理的に書いている。	作品の主題をとらえ人間の生き方について考えを深めている。	風景や人物の描写、比喩表現の優れた部分を指摘し、それらの効果について理解を深めている。
3	通読して内容・表現の特徴をとらえる。背景の時代への理解を深める。	当時の社会状況に興味を持ち、描かれている人々の生き方を			それぞれの作品の背景にある時代の状況をとらえ、作品中の	

	(二つの悲しみ 1時間) (お辞儀する人 2時間)	理解しようとしている。		人物の心の変化に気づいている。	
2	スピーチメモを作り、話の構成や表現の仕方、話し方を工夫する。	聞き手に分かりやすいスピーチになるよう工夫しようとしている。	意見と例と区別し強調したいところに変化をつけて話そうとしている。		スピーチに適した言葉遣いを工夫している。

6 本時の指導 (3 / 5)

(1) 本時について

指導の力点

本時では変わっていく故郷の人々 (ヤンおばさん、ルントウ) の変化を読み取るとともに、故郷の人々への「わたし」の思いを読み取らせるところに力点を置く。

指導の手だて

全文黙読は時間がかかるので場面を区切って行う。ヤンおばさん、ルントウを選択させ、学習プリントを基に読み取らせる。TTの特徴を生かして教師側も2つに別れてヒントカードを使いながら支援にあたる。全体の発表の前に小グループでの話し合いを行い、豊かなイメージを作らせる。発表には実物投影機を用い、分かりやすく、視覚に訴える。その後、「わたし」の思いを個人でまとめる。その際にヒントカードを用い、個への配慮を行う。

評価活動

単元全体を見通した評価カードを用いることで、単元の見通しを持たせる。評価観点をあらかじめ提示することで、意欲の喚起につなげる。

(2) 本時の目標 (評価規準と具体的評価規準)

	学習活動における評価規準	具体的評価規準		Cへの支援の方法	評価方法
		A十分に満足できる	Bおおむね満足できる		
書くこと	登場人物の生き方やその背景にある社会状況を考えながら感想や意見を書く。	「ヤンおばさん」や「ルントウ」の心身ともに追いつめられている生き方、その背後にある中国の社会状況や「わたし」の悲しみや寂寥感をとらえて感じたことや考えたことを筋道を立てて書いている。	「ヤンおばさん」や「ルントウ」の生き方、「わたし」の思いをとらえ、感じたことや考えたことを整理して書いている。	「ヤンおばさん」「ルントウ」「わたし」の生き方や思いをまとめさせるために、ヒントカードを用いたり個別指導にあたったりする。	プリントに書かれているものや文章をもとに評価する。
読むこと	人物の描写に着目して読み、登場人物の変容や生き方その背景にある社会状況をとらえる。	「ヤンおばさん」や「ルントウ」の過去と現在を比較し、特にルントウについては変容をもたらした原因や理由として当時の中国の社会状況を結びつけて考えている。悲しむべき厚い壁にさえぎられてしまった悲しみを理解している。	それぞれの過去の様子と現在の様子を比較してまとめ、その変容の原因や理由を読み取っている。ルントウの変容から感じた寂しさや悲しみを読み取り、故郷の喪失感を理解している。	ヒントカードを用いて個別指導に当たる。	読み取りの場面で書かれてあるもので評価する。授業後の回収されたプリントに書かれてあるもので評価する。

(3) 研究テーマとの関わり

(ア) 基礎・基本の内容の厳選

読むこと、書くことに絞って指導案に明記した。

(イ) 教材、展開の工夫

特徴的な二人の人物を取り上げ、焦点を絞って考える場を設定する。

(ウ) 意欲を高める工夫

課題に迫る方法を選択させることで意欲の喚起につなげたい。小グループでの話し合いを取り入れる。また、単元の見通しができる評価表を用いることで、単元の見通しをつけさせ、意欲を喚起させる。

(エ) 指導形態の工夫

課題に迫る方法別学習をTTの指導体制をいかして行う。

(オ) 定着を図るための工夫

人物の描写に着目して作品を読み取らせる。学習手順の明示をすることで学び方の定着を図る。

(4) 本時の展開

段階	学習内容	学習活動	支援の役割分担		指導上の留意点・評価	準備等
			T1	T2・TU		
導入 3分	1 漢字カード読み 2 課題の設定 3 ヤンおばさんとルントウは20年でどう変わり、それを「わたし」はどう感じたのだろうか。	難語句を読む。	全体で読ませる。	一緒に読む。		フラッシュカード 紙板書
展開 44分	3 学習手順の確認 4 課題追究 (1) 黙読 (2) 個人読み (3) 小グループでの話し合い (4) 発表 (5) 個人のまとめ	学習の手順を確認する。 場面を区切り黙読する。 自分が選んだ方をプリントに従って読み取る。 プリントを基に発表する。 プリントを基に発表する。 「わたし」の思いを文章にまとめる。	ルントウを選んだ方への支援をする。(低位の生徒) 板書 低位の生徒への支援をする。	ヤンおばさんを選んだ方への支援をする。(T2) ルントウを選んだ方への支援をする。(TU) 司会 (T2) 実物投影機操作(TU) 低位の生徒への支援をする。(T2) 全体的な支援をする。(TU)	全文ではなく3分で読める範囲に区切る。 ヒントカードを用いながら生徒を絞って支援にあたる。 人物の描写に着目して読み、登場人物の変容や生き方、その背景にある社会状況をとらえる。 登場人物の生き方やその背景となる社会状況を冷静に見つめ感想や意見を論理的に書く。 ヒントカードや板書をカギにまとめさせる。	紙板書 単元の評価カード 学習プリント 実物投影機 ヒントカード プリントを回収して評価する
終末 3分	6 評価 7 次時予告	本時の授業を振り返り自己評価をする。 故郷をあとにする「わたし」の思いを読み取ることを評価カードを基に予告する。				単元を見通した評価カード

